

日本エコレザー対談⑤③



左から新妻氏と稲次氏

新妻 正和氏

(株)まみ 代表取締役

稲次 俊敬氏

NPO法人日本皮革技術協会 副理事長

環境と人に優しく、
土に還る革「日本エコレザー」を駆使して
オリジナルバッグを製造販売する

協会主催の「講習会」が
きっかけになった

稲次 今月号の座談会は、バッグ専門
店(株)まみ様の社長、新妻正和様
にご登場いただきました。

名古屋と愛知・岡崎で「ガ
ルヴァ」「キーバランス」の店名で計
2店舗を持ち、日本エコレザーを
駆使したオリジナルのバッグで存
在感を発揮されておられます。
まみ様は大正時代のご創業との
ことですね。

新妻 祖父年栄としえが名古屋の大曾
根というところで創業しました。
当初は革バッグの専門ではなく、
袋物が中心でした。父正敏が、伊

フィレンツェの専門店で、「これは
埋めると土に還るのよ」と革バッ
グの商品説明をされたそうです。
それに感銘を受け、当店のもの作
りの原点になりました。

稲次 お父さまから経営のバトン
を受けたのはいつ頃でしたか？

新妻 10年ほど前の25、6歳の頃
ですね。SE関係の仕事を辞めて
後を継ごうと戻って来たのです。

稲次 その時には、お父さまから
引き継いだそのままで行こうと思
いましたか？ それとも何か新し
いことに挑戦しようと思ってい
ましたか？

新妻 名古屋の親戚がメーカーの
下請として革製バッグを作ってい
たこともあって、父はこちらと提
携して大量に作って大量に販売す
るやり方でした。

しかし、私が戻って来たころは、
時代も消費動向も変わっており、
以前のような販売の仕方では将
来は頭打ちかな、と感じていまし
た。これからは父のやり方とは違
う、時代に即したことをやってい
かないといけない…。差別化で
すね。試行錯誤の連続でした。

転機のきっかけになったのが、5
年前に従業員とともに受講した
「革と革製品の知識講習会」(注…
日本皮革技術協会が毎年、各地で
開催)でした。そこで、安全・安心の



ガルヴァ

オリジナルバッグ4つのコンセプト

BE SAFETY (環境に人にやさしいこと)

BE LONGER (より長く使えること)

BE IN YOURSELF (本来のあなた自身であること)

LESS IS MORE (無駄を省いて使いやすさを最優先)

革「日本エコレザー基準」があることを知り、これだ！と閃きました。

父は、「自然の恵みを大切に、天然の素材を」、製品は環境に優しい、土に還るものを」ということ大事にしてきました。

日本エコレザーは、その考えに合致するものでした。

稲次 それで、現在使用中の革について日本エコレザー認定取得を決められたのですか？

私もその革の認定取得のために、タンナーさんの協力をサポートさせていただきました。お役に立てましたか。

新妻 もちろん！初めて日本エコレザーの認定を取るとなると、これまでの普通の革のどこを変えたらいいのか分からない。実践的で豊富なアドバイスを頂けたので大変助かりました。いまもとても頼りしています。

稲次 バッグの認定数かなり多くなりましたね

新妻 認定数自体は多くないと

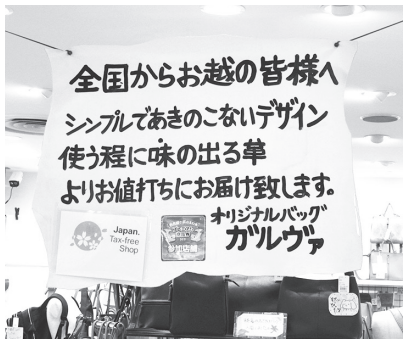
思いますが、色のバリエーションは多いです。

馬革を薄く漉いた紙のように軽いバッグ

稲次 商品企画はどのようにして決めていきますか？

新妻 基本は飽きの来ない、使い勝手の良いシンプルなデザインです。そして軽さを重視しています。

女性のお客様にとって、革のバッグは重いというイメージがあるので、メインで使っているのは、馬革ですね。牛革よりも繊維が緻密で、薄く漉いても丈夫です。お客様は「これ、本当に革製なの？」って驚かれます。



商品特徴を革に手書きで

「紙のように軽いバッグ」が、私どもの売りなんです。防水加工や、傷を隠す型押しは、革本来の風合いを無くすのであまり使いません。

稲次 接客が重要になりますね。

新妻 天然皮革の商品は経年変化で味わいが出てきます。使用前と使用後の見本も置いて、その変化、すなわちエイジングの魅力を伝えていきます。

日本エコレザーの認定革で作った商品については、消費者向けの説明パンフレットも添えて、安心・安心の革であり、土に還る素材であることを必ずお伝えしています。

以前は「軽さ」だけを売りにしていたのですが、日本エコレザーの認定取得で、より踏み込んだアピールができるようになりました。

稲次 日本エコレザーへの反応はいかがですか？

新妻 いまは消費者の方も環境意識が強く、関心を示される方が多いです。かなり踏み込んだ質問



稲次氏



新妻氏

をされることもあり、その受け答えで、接客が深まっていくことも多く、結果として信頼され、購入につながりやすくなります。
商品はほとんど女性向けなので、接客の中から常に好みの変化を肌で感じて行くようにいつも心がけています。ニーズは本当に多様化しています。

稲次 ほとんど自社製品なのですね？

新妻 先ほどお話しした親戚筋の工場で職人さんと入念に相談しながら、これを作ってくれる？ という感じで進めています。

稲次 新妻さん自身もお作りになるのですね？

新妻 サンプルは作ります。自分で作らないと、お客様に商品説明がきちんとできません。

毎年新作を出していますが、20年、40年も続いている定番シリーズがあります。それを時代に合わせて一部だけ作り変えていくというやり方です。

例えばいまは皆、スマホですか

ら、携帯電話用のポケットは要りません。

お客様から「ここをこうしたら？」といった声はたくさんいただきますね。

もの作りをやっていると、製作上の常識にとらわれて、こういう風にしか作れないと考えがちです。お客様は全然そういうことはご存じないので、自由な発想をされます。それがいいのです。本当にお客様に育ててもらっています。

消費者のエコ意識の高まりを実感

稲次 認定革で作った商品への反



日本エコレザーのパフレットを製品に添える

応はどうですか？

新妻 もちろん天然皮革であるということもありますが、日本エコレザーは発がん性染料を使用していないという関心も持たれます。

じゃあほかの革はどうなのって聞かれることもあります。日本エコレザーはしっかりと検査して有害化学物質に関して基準値をすべてクリアした革なので安全なのだ、と説明しています。

稲次 “日本エコレザーの6条件”(35ページ)というがあり、その中に発がん性物質の不使用も基準の一つになっています。

小売店さんにとって、他に何が良いのでしょうか。

新妻 染色摩擦堅ろう度(色落ち)の基準が厳しいことです。

革を手染めすると、色落ちしやすくなります。過去に色が落ちたとか、服に色移りして困った方は、色落ちをすぐ気にされるんです。日本エコレザーはその心配が少ないので、そこは自信を持って接客できています。



軽さをアピール

稲次 英文のパンフレットも置いていますが。

新妻 いまはコロナで外国人のお客様は来られませんが、それ以前はインバウンドの方もかなり来られていました。

エコレザーでメイド・イン・ジャパン、そして軽くて丈夫、と説明すると、じゃあ、これにしよう。エコと安心・安全への意識が日本人よりも非常に高いですね。

稲次 欧米はじめ中国を中心としたアジアの方々の客はそうでしょう。インバウンドの客は安心・安全な日本製を買いに来られている人が多いと思います。

新妻 日本エコレザーのホームページを見ると、革だけじゃなくて製品もたくさん登録されているんですね。

稲次 お陰様で、現在、認定数が1000件を超えています。ざっと革が700件、製品が300件という内訳です。

新妻 でも、製品を店頭でアピ

ルしてるところは少ないですね。

稲次 そこが今後の普及のポイントの一つになります。

先に話に出た講習会で日本エコレザー基準認定制度の説明をする時、「どこに行けば認定された商品を買えますか?」という質問がよく返ってきます。その時は「ガルヴァ」さんを紹介していますよ(笑)。

顧客ニーズに合わせた イージーオーダー開始

稲次 イージーオーダーもやっているんですね

新妻 フルオーダーは難しいので、定番の品番から革や糸を好きな色に変えるところか、で始めたところなんです。

仕事の時は大変なところもありますが、お客様が喜んでいただけるのが励みになります。

近いうちに補助金で買ったマシンを工房から店内に移そうと思っています。

稲次 製作の現場が見られるのはいいですね。

新妻 興味を持って頂けると思いますが。パーツの打ち抜き、革漉き、ミシン掛けの工程などをオープンにして、商品へのこだわりを見ていただきます。お客様が怪我をさせないよう作業しないといけません。

最近、素材で気になるのは、合皮製品の素材表示に「エコレザー」と書いてあるのがあちらしくて、混同されて困っています。

稲次 「レザー」は天然皮革を指すのに、わざとそういう言い方をしているんですね。「ネオレザー」「ビーガンレザー」とかも出てきています。レザーでも何でもないし、第一、石油製品のもので多いのでエコじゃないですね。

また、可愛い動物を殺してまで革にするのはおかしいとかネットにも出ていますね。革を得るために動物を飼っているのではないことは、冷静に考えると皆さん分かってくれるでしょう。

私たちは良質のたんぱく質を得るために肉を食べている。そして、食肉産業の廃棄物(副産物)である皮を皮革業界では有効利用しているのです。これを捨てたり、

【会社概要】

社名：(株)まみ
資本金：1,000万円
設立：1968年(昭和43年)(有)まみ設立。
1983年(株)まみに組織変更
代表：新妻 正和
従業員：9名
事業：革製バッグ、鞆、財布小物、ランドセルの製造販売
店舗：「ガルヴァ」(名古屋駅エスカ地下街)、
「キープバランス」(愛知・イオン岡崎南店)
所在地：愛知県名古屋市中村区椿町6-9エスカ地下街
TEL・FAX 052-452-1335



ガルヴァ

焼却したりするとどれだけ環境に負荷がかかるか、ということを実際に業界を挙げてもっとアピールしないといけません。

まみさんは、お客様のために安全・安心の革製品を広めていくリーディングカンパニー、広告塔ですよ(笑)。

新妻 プレッシヤーが掛かり過ぎです(笑)。もう一つ、レザーウィキング・グループ(LWG)の革が話題になっていきますね。あれってどうなんですか？

稲次 元々は、環境基準の低い発展途上国に工場が移っていき、環境破壊を起こしていることが問題となったところから始まっています。環境マネジメント、工場の排水処理、廃棄物管理、エネルギー消費・水の消費量、化学物質管理、トレーサビリティ、危機管理、安全衛生など：大手ブランドがこれまでに、これらの問題がある工場にも生産委託していたという経緯があったのです。

これらを払拭し、彼らのサプライチェーンの工場環境を改善させ

るためにLWGを活用したわけですね。LWGは簡単に言えば、「この革は適正に管理された工場で作られています」という証明です。ただし、日本エコレザー基準のような革の品質に関する項目はありません。

新妻 LWGの認定工場であれば革が いいのだから、勘違いしてる人が多いのですね。

稲次 残念ながらそのようですね。日本エコレザーは、6つの条件にも革の品質基準のほかに、排水と廃棄物の垂れ流し・不法投棄や社内での焼却などの廃棄をしていない工場の革である、ということもしっかりと押さえています。

最後に何かご要望などあれば。

新妻 日本エコレザー基準認定皮革製品がもっと広がっていくといいですね。タンナーさんが認定を取得されても、その革を使うメーカーがもっと増えないと、広がっていきません。

稲次 全く同感です。頑張ります。

日本エコレザー、6つの条件

- ①天然皮革である
- ②発がん性染料を使用していない
- ③有害化学物質の検査をしている
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- ④臭気が基準値を満たしている
- ⑤適切に管理された工場で作られた革
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で作成)
- ⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上



※これまでの「日本エコレザー対談」は、www.japan-ecoleather.jpのトップページの「業界情報」の項でご覧いただけます。